

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

名 前 山岡 栄里

作成日 2023年9月27日

### 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ、在宅看護援助論Ⅱ、在宅看護学実習、統合実習、看護研究Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、大学生入門

担当委員会：広報委員会、学科危機管理委員会、実習委員会

担当学年：1年生

### 2. 理念（教育に対する考え方）

在宅看護学は、在宅療養者とその家族を中心に、住み慣れた家、住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことを支援する。看護の基盤となる、生活を支える知識や技術を駆使しケアを提供する。学生には、ケアの知識と技術の修得を実践経験も活用しながら教授したい。また、学生が、学修の過程でぶつかるさまざまな驚きや喜び、辛さ、困難さを、ともに感じ取り、言語化しながら在宅看護学の醍醐味を伝えていきたいと考える。

さらに、学生には、在宅看護学の学修にとどまらず、看護師として、どのような環境にあっても、目の前の人の苦しき・悲しきをキャッチし、共感し、緩和のための実践ができる、そして自らの役割を熟慮し、他者と協働しながら課題の達成に努力できる能力を持った人材を育成したいと考える。そのために、常に自らの教授方法や内容を顧みて、課題を見出し、改善する姿勢を持ち続けていきたい。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

看護は実践に基づいた学問である。そのため講義は、理論や根拠とそれに基づく実践を統合して、構成している。さらに、初学者である学生に理解しやすいように、授業では映像や、当事者を招いた講話も含んだ工夫を行っている。またグループワークもふんだんに用いて、他者とのディスカッションを通じて思考を発展させることも意識して行っている。

実習指導では、対象理解に注力して指導行っている。学生の考えた看護の根拠を確認しながら対象者の理解について実践的に学習する機会としている。具体的には、学生なりにどのように対象者を捉えたのかを問い、教員の捉えた対象者との違いとその理由を共に考える。その過程から対象者とのコミュニケーション技術、情報の見方、知識の活用方法を学べるように導いている。

### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

今年度着任したので本学学生からの授業評価等、データはまだ得ていない。

大学生入門では、映像を用いて、対象者の意思決定支援について討議することを通し、自らの価値観を認識する機会を設けた。学生からは体験したことのなかった学習方法で新鮮だった、他者の考えから自分の価値観を一層認識できたといった声が聞かれた。

実習指導では、最終評価面接において、指導への意見をもらうことにしている。学生の意見に耳を傾ける姿勢が常に感じられて相談しやすく学習につながったという声が聞かれた。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

在宅看護学実習の学生の自己評価が4点以上となるkとを目標とする。  
評価時期は今年度末とする。

【添付資料】

開発教材